公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2015年6月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆奈良支部で「ヤングバーダー探鳥会」初開催！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
◆探鳥会訪問記
（多摩川丸子橋上流探鳥会）・・・・・・・・・3
◆徳島県支部からの情報
「愛鳥週間　野鳥フェア公募写真展の開催」・5
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・・6
（2015年4月分）
◆普及室からのお知らせ
・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み・・・・・・8
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・10
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・11
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・11

◆奈良支部で「ヤングバーダー探鳥会」初開催！

５月31日、奈良支部で、若い人を対象とした「ヤングバーダー探鳥会」が開催されました。当日探鳥会に参加し、リーダーを担当された上田梨華子さんと田阪知子さんにお話を聞きました。

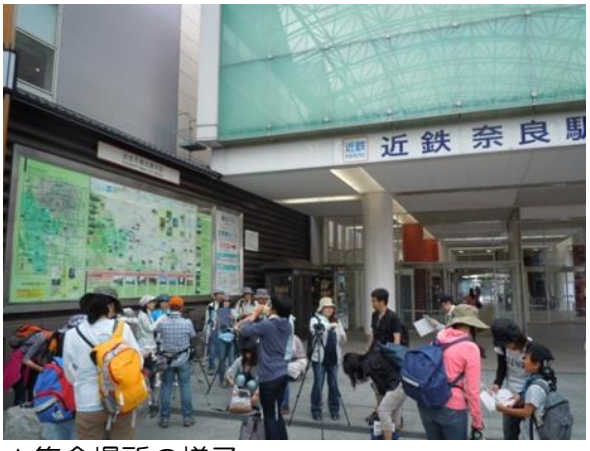
■始まりは「ヤン探をやってみたい」から

上田さんと田阪さんは、昨年11月、奈良支部の支部報「いかる」148 の年頭特集として企画された「奈良ヤングバーダー座談会」に参加しました。この座談会には、支部の中学生から社会人までの若い会員５名が集まり、支部長や幹事の方とともに、野鳥の会との出会いから奈良支部でやってみたいことまで、和気あいあいと話し合いました。

座談会の席で、当時高校３年生だった上田さんが、奈良で「ヤン探（ヤング探鳥会）をやってみたい」と提案しました。「SNS や雑誌『バーダー』を通じて、日本野鳥の会東京が行っている「ヤング探鳥会」が人気だと知り、奈良にも同年代で鳥が好きな人がいるのではないか、そんな人たちが集える場が欲しい」と思っての発言でした。

■幹事のバックアップ

座談会のあと、提案者の上田さんと社会人の田阪さんに「ヤングバーダー探鳥会を開催してみないか」と支部から声がかかりました。当時支部では、高齢化や会員減少の影響を受け、支部の活動が停滞気味となっていることを危惧し、何か新しいことをやってみようという気運がありました。この時、上田さんも田阪さんもリーダーは未経験。田阪さんに至っては、支部に入会してまだ半年のことでした。



▲集合場所の様子

幹事の方は計画から２人を手伝い、当日も望遠鏡の数を増やすなど、さりげなくバックアップをしました。２人で下見に何度も通い、田阪さんが率先して当日の資料を作成すると、上田

さんが参加者へのプレゼント企画を考えるなど、お互いに支え合いながら準備をし、開催日を迎えました。

■参加者約 30 名。大盛況の探鳥会

第一回目のヤングバーター探鳥会は、5 月 31 日（日）の 9 時～12 時に、奈良公園で開催されました。開催場所はアクセスや知名度、トイレの有無などを考慮して選びました。

心配されていた雨も降らず、涼しい曇り空の中、集合場所の近鉄奈良駅には約 30 名の人が集まりました。広報は、口コミや Twitter、Facebook の他、県庁やアウトドア系のお店へのチラシ設置などでした。

「小学生の娘が鳥を好きになり、バードウィークの探鳥会で初めて支部の探鳥会に参加した」という親子や「生態調査のサークルでキャンパスの野鳥を調べている」という大学生など、兵庫県や大阪府など他県からもこの日を楽しみに参加者が集まりました。

探鳥会では、ヒナを連れたエナガの一家や大人気のカワセミなど、次から次へと野鳥が現れ、参加者は大喜びでした。探鳥会終了後には参加者みんなで、芝生でお弁当を食べる場が用意されており、自己紹介や野鳥グッズの話に花が咲いていました。

▲橋の上からカワセミを観察

■次回は、冬に平城宮跡で

開催を終えて安堵の表情の 2 人は、「多くの人が参加してくださり、天気も鳥も、全てが味方してくれ、何とか終えられました。会員数 500 名にも満たない奈良支部ですが、今回ヤングバーダー探鳥会を開催出来て、支部としても一歩前進できたと思います。」と話していました。

ヤングバーダー探鳥会は、5 月に 1 回、冬に 1 回を企画しており、次回は冬に平城宮跡で開催したいとのことでした。

▲左から、上田さん、田阪さん、堀本

（まとめ：普及室／堀本理華）

多摩川丸子橋上流探鳥会（東京）

参加日時：2015 年４月 29 日（水）
８時～11 時 30 分
天候：晴れのち曇り
参加者：76 名（男性 41 名、女性 35 名、財団事務局から富岡、植月含む）
リーダー：７名

■探鳥会概要

多摩川丸子橋上流探鳥会は日本野鳥の会東京が年４回開催している準定例の探鳥会です。

多摩川丸子橋周辺は、東急東横線・目黒線の「多摩川駅」や「新丸子駅」からも程近く、多くの人が集まる場所となっています。

多摩川駅の東側には区立田園調布せせらぎ公園、西側には多摩川台公園という２つの緑濃い公園があり、大田区の田園調布でありながらも野鳥を楽しむことの出来る場所です。

集合場所は多摩川駅の改札口。そこから多摩川駅の東側、3ha ほどのせせらぎ公園を散策しました。その後一度丸子橋に向かい丸子橋周辺で水辺の鳥を観察した後、多摩川駅西側の丘陵地にある多摩川台公園に向かい、最後に多摩川沿いを歩くコースでした。

▲公園内での観察の様子

■探鳥会の様子と観察した鳥

４月とは思えないほど朝から強い日差しが降り注ぐ中での探鳥会になりました。

76 名と参加者も多く、初心者グループが設けられていて、このグループは３人のリーダーが引率されていました。他のグループが観察に向かう中、初心者グループは双眼鏡の使い方や鳥を双眼鏡で見るときのコツ、双眼鏡を覗きながら太陽を見ないようにするなどの使用上の注意点がレクチャーされました。

公園に入るとオナガ、シジュウカラのさえずりが絶え間なく聞こえました。覆い茂った緑でその姿はなかなか確認できませんでしたが、鳥がさえずるたびに図鑑を使いながら鳴き声と姿の特徴が説明されており、初心者にとっても野鳥をイメージし易い配慮がなされていました。また、リーダーから

「白い花を咲かせているミズキの実は秋の渡り鳥たちの大好物です。このような野鳥が好む木を知っていると、どこで観察すればいいかわかります。」

と野鳥観察と植物の関係が説明されました。

丸子橋周辺ではアオサギ、コサギ、オオバン、コアジサシなど水辺の鳥を観察しました。コチドリは周りの景色と同化してしまい、初心者の方々はなかなか双眼鏡で見つけることが出来ませんでした。はからずも、擬態が天敵から身を守る有効な手段だという事を実感されていました。

観察した鳥は、キジ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ヒメアマツバメ、コチドリ、イソシギ、コアジサシ、トビ、コゲラ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ、大型ツグミ sp、外来種のドバト、ホウセイインコ、アヒルでした。

■参加者の声

以下は探鳥会に参加しながら雑談の中でお聞きした参加者のお話です。

小学校６年生の男の子：鳥を飼ったことから野鳥に興味を持ち、以前住んでいた石垣島では様々な鳥を見ていました。最近東京に引っ越してきて石垣島では見たことのない鳥を見て、東京で見られる鳥を知りたくなり、入会しました。今日は２回目の探鳥会です。

30 歳くらいの女性：鳥がもともと好きで小鳥

などを飼っていました。家の近所でもいろいろな鳥の鳴き声を聞き、どんな鳥なのか気になっていました。インターネットでこの探鳥会を知り、今回初めて探鳥会に参加しました。聞いたことのあった鳥の声がなんという鳥かやその生態などについて聞けて楽しいです。

30 歳くらいの男性：カメラが好きで以前から上野の不忍池で写真を撮っていました。そのうちに池にいる野鳥の写真も撮るようになり、鳥たちのことを知りたくなりました。月曜日に双眼鏡を買ったので、どこかでバードウォッチングがしたいと思いインターネットで「野鳥」と検索したところ、今日の探鳥会があることを知って参加しました。

▲多摩川での観察に様子

▲河川敷のグラウンドでのムクドリ観察の様子

■まとめ

新緑が茂り野鳥の姿を確認しづらい季節になったことから、地鳴きと囀りの違いや、身近でよく聞かれる野鳥の鳴き声が紹介されました。また、鳴き声を覚えることで、渡りの季節がより楽しいものになりますというアドバイスが印象的でした。

参加者が多かったので人が 1 ヶ所に集中しないように観察場所をグループごとに分散させたり、前のグループが進むまで解説しながら待つなどの見えないところでの配慮がされていた探鳥会でした。

（普及室／植月智子）

◆徳島県支部からの情報

徳島県支部では、今年の愛鳥週間の５月９・10 日（土・日）に、松茂町月見ケ丘海浜公園のビジターセンターにて、野鳥写真展を開催しました。この野鳥写真展は、会員と一般の野鳥カメラファンの方々の交流の機会を増やすことを目的に開催されました。

「愛鳥週間　野鳥フェア公募写真展の開催」

■開催の目的・経緯

日本野鳥の会の会員数が減少している、ということについて、「“カメラマン”の方々も野鳥に興味を持っている方々だ。カメラマンの中から、野鳥の会に加わってくださる方も、きっといるはず」と仮定しました。

加えて、「しばしば問題となるマナーを超えた撮影行為をどうするか、について、『ガイドラインを示すことが出来るのは、野鳥の会しかないだろう』という考えから、折を見つけては、カメラマンの方々と交流できる機会を増やしていかなければならない」、という考えに基づいた試みです。

■会員に負担をかけない方法で開催

支部で独自の行事を開催することは、とても負担です。できるだけ会員に負担をかけずに、支部の経費負担も少なくして行事を企画したいと考えました。

開催方法として、格安の広い会場を確保、展示方法を簡素化（簡易額縁に入れ長机に置くだけ）、期間を２日間としました。出品者の皆様には快くご協力をいただき、名札で指定した机に、出品者自ら写真を平置きする形で作品を展示しました。

愛鳥週間行事として、徳島県に共催を、朝日新聞徳島総局、NHK 徳島放送局、四国放送㈱、徳島新聞社（あいうえお順）に後援をしていただくことができました。会期の初日冒頭には、四国放送がニュース取材してくださり、当日の朝から放映されました。

■当日の様子

野鳥の生態を活写した作品を公募したところ、21 名の方々から応募をいただき、出品点数は 70 点あまりでした。

応募はほとんどが会員の方からでしたが、当日は会員外の野鳥カメラファンも多数お出でになり、皆さん熱心に作品をご覧になっておられました。入場者数は一日目が 108 名、二日目が 139 名を数えました。

▲展示の様子

■今後の展望

会場を観覧されている方に声をかけてみると、意外なほどに野鳥を日常生活でご覧になっているのだなあと感じました。そういう意味で、決して通りがかりで来場されたのではなく、行事を新聞やニュースで知って、興味を持ってきてくださった多くの方とお話をすることが出来ました。このような機会を続けていくことにより、野鳥の会の底辺を確実に広げていけるだろうと感じた二日間でした。

（徳島県支部／髙井正明）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年 4 月分）

4 月は 66 支部からご報告をいただき、計 254 回の探鳥会が開催され、のべ 6,176 人が参加されました。

表 1.4 月の探鳥会保険集計結果（2015 年 5 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	2	29	7	2	38
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	1	14	2	1	17
滝川支部	1	9	0	1	10
道北支部	1	8	0	1	9
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	110	75	11	196
小樽支部	2	6	7	2	15
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	22	16	3	41
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	2	14	38	13	65
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	25	2	2	29
秋田県支部	4	42	3	4	49
山形県支部	4	34	13	7	54
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	14	16	4	34
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	32	9	7	48
ふくしま	2	30	4	4	38
郡山支部	1	23	0	3	26
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	0	0	7	7
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	23	8	2	33
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	10	105	74	12	191
栃木	−	−	−	−	−
群馬	8	70	16	28	114
吾妻	2	32	6	4	42
埼玉	6	223	65	41	329
千葉県	8	132	18	32	182
東京	14	560	14	71	645
奥多摩支部	10	152	20	30	202
神奈川支部	12	242	66	42	350
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	3	69	33	5	107
石川	2	55	8	6	69
福井県	1	11	0	1	12
長野支部	5	96	27	10	133
軽井沢支部	1	13	9	1	23
諏訪	2	17	35	4	56
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	36	0	4	40
富士山麓支部	0	0	0	0	0
東富士	0	0	0	0	0
沼津支部	1	13	0	2	15
南富士支部	2	54	5	3	62
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	2	16	0	4	20
遠江	3	75	15	8	98
愛知県支部	14	129	139	34	302
岐阜	−	−	−	−	−
三重	6	49	21	12	82
奈良支部	6	90	0	12	102
和歌山県支部	1	3	19	5	27
滋賀	5	36	17	9	62
京都支部	5	80	36	10	126
大阪支部	22	466	147	89	702
ひょうご	8	108	106	17	231
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	25	6	3	34
島根県支部	1	3	2	1	6
岡山県支部	6	112	51	16	179
広島県支部	4	35	50	17	102
山口県支部	2	15	7	2	24
香川県支部	4	99	21	4	124
徳島県支部	5	50	7	5	62
高知支部	−	−	−	−	−
愛媛	6	51	20	7	78
北九州	3	29	4	3	36
福岡支部	8	127	27	17	171
筑豊支部	5	36	7	5	48
筑後支部	3	30	12	3	45
佐賀県支部	3	35	10	3	48
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	2	27	12	2	41
大分県支部	1	18	6	1	25
宮崎県支部	2	29	12	2	43
鹿児島	3	52	13	12	77
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	254	4,140	1,363	673	6,176

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

長らくお待たせしてしまい、すみませんでした。ようやく『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版（以後、新版と記す）の発行に至りました。一見しただけでは「そんなに変わったの？」と思われるかもしれませんが、見比べて、読み比べていただくほどに「こんなに変えたの？」とお気づきになるでしょう。歴史が詰まっている図鑑ですから、吟味、熟考の上ではありますが、相当な箇所に修正を施しています。

一方、2013 年に日本鳥類目録改訂第７版に沿わせて発行できた『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』（以後『山野』『水辺』と記す）の改訂版はお陰様で売れ続け、早くも第３刷を出さなくてはならなくなりました。新版では『フィールドガイド日本の野鳥』と『山野』『水辺』との違いを減らすように努めましたが、『山野』『水辺』改訂版の増刷の機会に見直した結果、逆に『山野』『水辺』を修正したほうがよい箇所がありました。

◇海ガモ類か？潜水カモ類か？

先に『フィールドガイド日本の野鳥』と『山野』『水辺』で違う例を書いておきましょう。『フィールドガイド日本の野鳥』は、カモ類を淡水ガモ類、海ガモ類などに分けています。私が担当する前の『水辺』も同様でしたが、「海ガモ類とされる中で最も身近なキンクロハジロやホシハジロは淡水域にいることが多いので、海ガモという呼び方はよくない」という意見をしばしば頂戴していました。環境で分けるのに無理があるとしたら、水面採餌ガモ類と潜水ガモ類という行動で分けた呼び方でよいのでは・・・と考えましたが、「水面採餌では言葉として長くなる」「採餌は不適切で、採食とすべき」「時には潜ることもある」など、さまざまな見解があります。

1997 年に『山野』『水辺』の解説を担当することになった私は、海ガモ類と呼ばれる仲間は例外なくよく潜るので、「潜水ガモ類」としました。ただし、『フィールドガイド日本の野鳥』と『水辺』に違いを生じさせてしまったために、『水辺』の潜水ガモ類の解説の中で「キンクロハジロとホシハジロ以外は海に多く、海ガモ類ともいう」と補足してあります。

すでに『山野』『水辺』改訂版をお買い上げいただいた方には申し訳ありませんが、第３刷で『フィールドガイド日本の野鳥』と違う点を補足するために直す例として、尾羽の形状の名称があります。カワラヒワのように中央尾羽が外側尾羽より短く真ん中が凹んだ形に見える尾羽を、『山野』『水辺』ではＭ尾と呼んでいました。が、『フィールドガイド日本の野鳥』では凹尾としているので、『山野』のＭ尾の下に（凹尾）と入れることにしました。

◇九州以北か？屋久島以北か？

新版では分布図を見直すために、目録７版に記載された全種、全国の記録をチェックしたし、目録では不十分な島嶼部での記録を調べもしました。これまでは小笠原群島（硫黄列島は含まない）と小笠原諸島（硫黄列島を含む）などで混乱もありましたが、新版ではすべて見直して、必要に応じた修正を施しました。それでも、分布不明の種や地域は少なくないし、島ごとの違いもあるし、変化もしますので、分布の表記のしかたは、悩ましいことが少なくありません。

例えば、フクロウのように「九州以北」と記される種は南西諸島では見られないことを意味します。が、ツバメのように南西諸島を旅鳥として通過するような種では、私は「主に九州以北」と書くようにしています。悩ましいのはトビのように奄美諸島以南では稀でも屋久島には普通というような場合、どう書くか？です。これまで『山野』『水辺』では九州以北と書いてきたトビですが、第３刷では『フィールドガイド日本の野鳥』に合わせて「屋久島以北」に直します。

ほかにも『山野』『水辺』で、ズグロミゾゴイ、ムラサキサギ、オオクイナは八重山諸島と書いてきましたが、目録７版ではこれらは宮古島でも見らるように書かれています。新版では南西諸島南部と位置づけていて問題ないのですが、『山野』『水辺』では八重山諸島と宮古諸島を合わせた「先島諸島」と記すように直します。また、キバシリやホシガラスのように九州では少ない上に分布が限られる種は、これまで

は主に四国以北と書いてきましたが、新版に合わせて「九州以北」とします。

◇シロカモメは 69 ㎝でよいか？

『水辺』改訂版を見直してみると、シロカモメの解説中にやや小さい類似種、アイスランドカモメを補足していました。シロカモメの小型個体がアイスランドカモメと誤認されることがあるので、アイスランドカモメを記すならシロカモメの全長の個体差に触れておくべきではないか？と考えました。これまで全長 69 ㎝としていましたが、第３刷では『フィールドガイド日本の野鳥』新版に合わせて 62～70 ㎝とします。

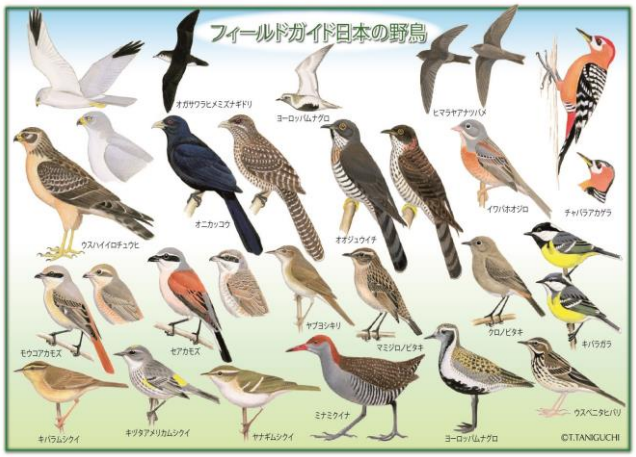
昨年の 10 月号で、全長や翼開長の数値を決めなくてはならない難しさは書いたと思いますが、新版と第３刷同時に修正することになったのがヒメアマツバメの翼開長です。多くの図鑑で 28cm とされていますが、イワツバメの翼開長が 30 ㎝とされています。個体差や見え方の違いはあるにせよ、野外で見比べたときイワツバメより小さく感じられることは少ないのではないでしょうか？　新版の参考文献としたMarkBrazilの著作には28～35㎝と幅広い数値があげられており、その平均値で 32 ㎝を採用することにしました。

◇基部か？付け根か？

ここまでは図鑑をよりよくしたい担当者の裏話しと思っていただいてよいのですが、第３刷での重要な修正点があります。それは、新版に揃えて、漂鳥の定義から国内移動を削除することです（昨年の７月号で触れたが、ウグイスやウソを漂鳥とし、漂鳥は国内を移動する鳥とする図鑑が多いが、大陸から移動してくるウグイスやウソもいる）。

もう１点、部位の表し方を揃えることも重要なポイントとしてお伝えしておきます。『フィールドガイド日本の野鳥』では増補改訂版に遡りますが、しばしば混乱が見られる嘴の基部と付け根についてを整理して、統一しました。「嘴の基部」は嘴そのものの基の部分で、「嘴の付け根」は嘴がついている顔の部分として揃えたのですが、『山野』『水辺』改訂版でも混乱があったので、第３刷で修正させていただく次第です。

（普及室／安西英明）



▲これまで、目録７版における新たな掲載種の図版を、担当された谷口高司さんの了解を得て紹介してきましたが、今回は、当会で新版を購入された方（８月末日まで）へのプレゼントはがきを紹介させていただきます。（新版で新たに追記した種の画像を、描いた谷口さんご自身に並べていただいたものです）

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信６月号の電子メール版の購読者数は、先月から３名増えて 857 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信６月号電子メール版の購読者数（2015 年６月 10 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	2
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	132
北上支部	2	大阪支部	24
宮城県支部	39	ひょうご	9
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	24	筑豊支部	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	36	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	49	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	18	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	4	西表支部	2
		合計	857

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

あまりにも暑い５月ですっかり夏気分でしたが、これから本格的にジメジメの梅雨ですね。

やや鬱陶しい気分にもなりますが、お休みの日には是非、増補改訂新版「フィールドガイド日本の野鳥」を片手にフィールドへどうぞ！今回のフィールドガイドは内容量が増えたのに、以前のものより薄くて軽い優れものです。以前は「持ち歩けない！」と思っていた女性にもお勧めできます。（私は思っていました・・・）私も購入したので、どんどん活用したいと思っています。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第27号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2015年6月16日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org